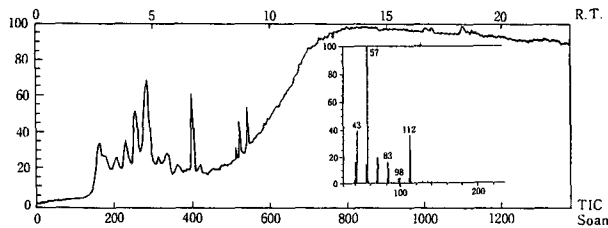


**目的** 生活環境を豊かにするために、室内芳香剤が最近おおいに注目されつつある。この芳香は従来のトイレタリー・パフュームと違って、森林芳香のような複雑な香りを利用することに重点がおかれている。こうした、トータルとしての森林の香りが、生体にどのような影響を及ぼすかを調べ、自然志向芳香剤の意義を明らかにすることを目的とした。

**方法** 静岡県函南町郊外で、クロモジの自生する山林中の家屋内（エメラルド・タウン提供）において、7人の成人女子について、瞳孔の光反射、呼吸機能などによって、森林と都市環境におけるそれらの影響を比較検討した。また、自然条件結合の状況を目安にして、両地域の快適性をみることで、条件結合のよい場合は快適な環境であるので、その結合の度合いから、快適性の判定を行った。

**結果** 下図は森林空気のGC、ならびにR.T. 9'02"におけるMSを示す一例である。



気象条件や照度など、森林中での測定条件と同じに人工気候室を設定して瞳孔反射を比較すると、瞳孔の初期面積、最小になるまでの縮瞳時間、加速度に、両地域間の有意差が認められた。条件反射の結合は、森林環境でその状況がよく、唾液の分泌反応より確かめられた。